

『第1回 京商政策フォーラム』総括文

京都は、歴史、文化、宗教など日本の精神面の中心的存在である。守るべきは守りつつ、新たなライフスタイルやビジネスモデルを創造し、提案する力があるからこそ世界の中で輝いている。この都市としての吸引力が新たな融合を促し、新しい産業と生活文化を創造する「知の創造と活用」の好循環を保つ原動力になっている。今後も日本の進むべき道筋を指し示す指針となる街であり続けるために、あらゆる面において京都の知恵を活かした更なる都市格向上への取り組みが責務となる。

21世紀の京都産業モデルは、昔からの人々の「生き方の知恵」、「暮らし方の知恵」、「街のあり方の知恵」を活かしながら、脱量産の発想のもとで、「科学と技術」、「匠の技」、「デザイン」などの知恵を加え、顧客(ユーザー)視点の付加価値を創造する、地域の特性に合った「知恵ビジネス」に集約される。

また、次代を担う子どもたちに京都の歴史・伝統・文化を継承することは、日本人としての自覚を育む。今後の日本のあるべき姿を考えた時、守るべきものは守りながら、その能力を遺憾なく発揮できる人材の育成が最重要課題であり、産業界としても積極的に教育に参画していくことが必要となる。

さらには、京都議定書締結の地として、各都市の模範となる環境・地球温暖化に対する取り組みを、産業界だけではなくオール京都体制で、どの都市にも先んじて推進していかなくてはならない。

以上の観点から、「京商政策フォーラム」において掲げた3つのテーマについて、討議から得た共通認識を、京都商工会議所の事業活動に反映させるべく、以下のとおり取りまとめた。

1. 京都独自の知恵を活かした中小企業活性化策

京都商工会議所は、「ニュー京商ビジョン」に掲げる「知恵産業のまち・京都の推進」のため、様々な分野において産学公連携の裾野を広げ、「知恵ビジネス」のプロデュース体制を構築し、コラボレーションの機会創出を支援する。また、こだわりを持った京都の強みを最大限活かすためにも顧客と現場がお互いに接点を持つ、「双方向の見える化」に取り組むことによって、新たな顧客創造につながる取り組みを推進する。

2. 教育・次代を担う人材育成

京都商工会議所は、未来の京都産業を支える、高い技術力やものづくり力を発揮する人材育成のため、次代を担う子どもたちの自律的な教育や地域貢献の重要性を再認識し、「環境学習事業」(出前授業)で培ってきたノウハウを活かし、子どもたちが地域の産業を学び、いつの年代においても体験できる機会を充実させるなど、企業の自主的な教育支援活動の啓蒙普及に努める。

3. 環境・地球温暖化対策

京都商工会議所は、これまでから、会員企業に対して、温室効果ガス削減に向けた取り組みのアンケート調査や「事業者向け環境家計簿」の協力要請を進めているが、引き続き、京都の「知恵」を活かした低コストの先進的な温室効果ガス削減対策を進めていく。また、行政の地球温暖化対策の取り組みに積極的に参加・協力することによって、森を育てるなど低炭素社会の実現に向けたビジョンの共有を図るとともに、京都商工会議所独自の取り組みとして「環境行動計画」を策定する。